

【声明】

新型コロナウイルス感染は、私たちに今、何をすべきかを警告している

2020年5月1日 核戦争に反対する医師の会

今、新型コロナウイルスの感染は世界的なパンデミックとなり、世界中の人々のいのちを脅かしています。4月30日現在、世界の感染者の数は300万人を超え、死亡者は20万人を超えています。日本でも感染者が1万人を超える事態となり、その数は急速に増加しています。

私たち医療に従事する医師は、病院や診療所でその最前線に立ち、患者の治療にあたっています。イタリアでは150人以上の医師が新型コロナウイルスの感染で命を落としたと報じられています。オーバーシュート（爆発的感染）に至れば、どこの国でも医療崩壊になることが想像できます。日本でもすでに、医療の現場では、マスクやフェイスシールド、エプロン、消毒液などの感染防御の最低限の物資さえも不足し始めています。そういう中であっても、日夜奮闘されている医師・歯科医師や看護師などの医療従事者の皆さんに最大限の敬意を表します。

こういう時だからこそ、いのちと健康を守ることを使命とする私たちは訴えます。紛争や争いごと、核兵器などの軍事費に巨額のお金を使うことをやめること、さらに、人類の生存を脅かす地球温暖化を防止すること。そして、人間が幸せに生きていくために、医療や福祉などの社会保障、教育などにそのお金を使うことを訴えます。

3月24日、グテレス国連事務総長は、「ウイルスの猛威は、戦争の愚かさを浮き彫りにしている」と表明し、「よって私は今日、全世界、すべての地域で即時停戦を呼びかける」として、「銃を沈黙させ、大砲を止め、空爆を中止する」ことが人命を救う支援を提供することになると訴えました。

4月17日、CNNの「OPINION」で、IPPNW（核戦争防止国際医師会議）のIra Helfand、Arun Mitra、Tilman Ruff 共同代表は、「今回の新型コロナウイルスの感染は予測されていたのに、なんら対応されてこなかったことに最大の問題がある。世界的なパンデミックを引き起こす可能性のある新しい病原体を防ぐことは不可能であるが、それらが出現した時に、それらに適切に対応する準備をすることは可能である。そして、この教訓を、人類が直面している他の2つの脅威、すなわち気候変動と核戦争の危険性拡大に適用しなければならない」と訴えています。

多くの国々は、自国民の安全を守るために軍事力の強化が必要だとして軍拡競争にしのぎを削り、2019年の世界の軍事費は1兆9,000億ドルに達し、最大の軍事大国アメリカは7,320億ドルを投じています。しかし、新型コロナウイルスは、世界最強の軍事力を持つアメリカにいとたやすく入り込み、多くのアメリカの国民のいのちを奪っていることを考えると、軍事力を強化しても、国民の安心・安全は保障されないことを証明しています。

パンデミックな未知の感染症、地球温暖化、さらには核戦争の危機によって、人類の生存そのものが問われている時に、自国だけが武力によって生き残ろうとする考え方の愚かさが明らかになっています。

今こそ、軍事力に頼る「国家の安全保障」からいのち、人間一人一人を大切にする「人間の安全保障」という方向にパラダイムシフトすべきだと考えます。